

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																			
YIC京都ペット総合専門学校	平成25年3月25日	村田 忠男	〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																			
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																		
商業実務	商業実務専門課程	ペット総合科	平成26年 文部科学省告示第6号	-																																		
学科の目的	<p>良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストとして活躍できる人財を育成する(教育理念)。</p> <p>具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 人と動物の共生社会の実現のために、正しい知識と高い倫理観を持った人財。 即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感と豊かな人間性を備えた人財。 他業界・他職種とも協調でき、視野の広い大きな心を持ちうる人財。 利他の精神で働くことに社会的意義を感じ、将来ペット業界の指導的立場やリーダーとなりうる人財。 ジャパンケネルクラブ公認トリマーライセンス、ジャパンケネルクラブ公認ハンドラーライセンス、ジャパンケネルクラブ愛犬飼育管理士、全国動物専門学校協会サロントリマーライセンス、愛玩動物飼養管理士等、将来の業務に就くために必要な資格の取得。 動物医療に近い部分の該博な知識を有し、業務を通して動物の健康状態のチェック及び異常が発見できる。 																																					
認定年月日	平成27年2月25日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																															
2年	昼間	66	66	1	84	0	0																															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																	
160人	165人	1人	6人	19人	25人																																	
学期制度	■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 成績:秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59) 評価の方法: ペーパーテスト及び実技、レポート等																																		
長期休み	■学年始: 4月 1日 ~ 4月6日 ■夏季: 7月24日 ~ 8月31日 ■冬季: 12月23日 ~ 1月10日 ■学年末: 3月10日 ~ 3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:																																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 0																																		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ペットショップ、美容サロン、動物病院		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																		
■就職指導内容 総合支援課の職員をはじめ教職員の多くがキャリアカウンセラーの資格を有しており、教員と総合支援課の専任スタッフが密に連携しながら、きめこまやかにサポートするなど、就職指導に万全の体制を整えています。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKC公認トリマーC級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>JKC公認ハンドラーC級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>②</td> <td>80人</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>33人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>AAVサロントリマー検定1級</td> <td>③</td> <td>48人</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JKC公認トリマーC級	③	21人	20人	JKC公認ハンドラーC級	③	9人	9人	愛玩動物飼養管理士2級	②	80人	62人	愛玩動物飼養管理士1級	③	33人	28人	AAVサロントリマー検定1級	③	48人	47人									
資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																																		
JKC公認トリマーC級	③	21人		20人																																		
JKC公認ハンドラーC級	③	9人		9人																																		
愛玩動物飼養管理士2級	②	80人	62人																																			
愛玩動物飼養管理士1級	③	33人	28人																																			
AAVサロントリマー検定1級	③	48人	47人																																			
■卒業生数 72 人 ■就職希望者数 69 人 ■就職者数 64 人 ■就職率 93 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 89 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																				
■その他 ・進学者数: 0人 ・進路未定者数: 5人		■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0																																				
(令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																						

中途退学の現状	<p>■中途退学者 5名 ■中退率 3%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者157名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者152名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>体調不良、学習意欲の低下、動物アレルギーによる体調不良他</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み。クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。授業アンケートやhyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施。スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>※有の場合、制度内容を記入</p> <p>・特待奨学金制度（一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜）初年度学費よりS：学費20万円免除、A：10万円免除、B：5万円免除</p> <p>・ファミリーサポート制度（YICグループ校の在学学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し、初年度学費より5万円免除）</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p> <p>前年度実績：1名</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3)上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	①
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックリマール委員会 委員長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
田川 直樹	株式会社ひこベツフレンドリー 取締役人事部 長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	③
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日	②
村田 忠男	YIC京都ペット総合専門学校 校長	—	—
飛田 隆	YIC京都ペット総合専門学校 副校長	—	—
五郎畑 通与	YIC京都ペット総合専門学校 教務課長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月20日 15:00～17:00

第2回 令和4年11月11日 開催予定

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

今後の検討課題

1. ブリーダーでは犬種が定まっているケースが多いため、一般家庭飼養されているプードル犬や人気犬種以外について、現在もモデル犬を継続募集中ではあるが、なかなか集まっていない。本校で確保できていない人気犬種について、外部講師に依頼し、トリミング実習のデモンストレーション授業を後期に実施することを考える。
2. 接客のコミュニケーション力向上のため、ロールプレイングを導入して授業展開を行う。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、適宜企業側から最新の技術教育に対する学校への講師派遣、あるいは企業においての技術教育等を行う。連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、各協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師（担当者）等について

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握をし、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

実習・演習等においては、各科目のシラバスにより授業を進め、授業終了後には実施した内容をクラウド上の授業報告書に記入し、他の教員との間で情報共有を行う。

各定期試験において、指導者より出題される課題（ペーパー試験、実技試験等）を実施し評価していただく。この評価を基に、単位認定・卒業判定会議にて最終単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
水生生物Ⅰ	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境（光・酸素・二酸化炭素など）を覚える。癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	FISH・HOUSE 代表 細川 敏史
訓練Ⅰ	家庭犬を深く知ることで、しつけとは何か、飼い主ができる方法や飼い主が困る犬の問題行動の予防や解決方法を覚える。モデル犬と一緒に犬を飼うために必要なスキルと最低限のしつけ方法を学び、覚える。	アルカドッグトレーニング 主宰 菊川 智子
家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。犬のコントロール方法を覚える。	BANFFドッグスクール 代表 小泉 秀明
訓練Ⅱ	ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う。社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢献ができる。	BANFFドッグスクール 代表 小泉 秀明
ハンドリング	ハンドリングの方法と技術を覚える。犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。	ORUHA TECKEL 代表 山中 美佐穂

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「動物専門職のための人と動物の関係学」

連携企業等: 全国動物専門学校協会

期間: 令和3年8月27日(木)

対象: 教員

内容 多頭飼育崩壊や悪徳ブリーダーによる動物遺棄等の問題について、学生達に正しい知識を伝達するためにはどのようなことを知り、説明を行っていくのか?メディアによる偏った情報に捉われず、これからの人と動物が共存する上で動物の正しい実態を知り、適正な飼養管理方を理解、技術のみならず動物に対するプロフェッショナルなスタンスが必要。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「教学マネジメント研修」

連携企業等: 株式会社 ベネッセ

期間: 令和3年8月20日(木)

対象: 教員

内容 教学マネジメントの動向や現在の中・高等学校の教育の現状など紹介。教育課程を編成する上で重要となる非認知能力などの学習成果について、ワークショップ形式でテーマを決めてルーブリック評価の評価基準を作成した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「JKC愛犬飼育管理士講習会」

連携企業等: 一般社団法人ジャパンケネルクラブ

期間: 令和4年8月30日(火)

対象: 教員

内容 「動物の愛護及び管理に関する法律」の理念に基づいた「JKC愛犬飼育管理士」資格取得の講習会

研修名: 「JKC近畿ブロットリマー義務研修会」

連携企業等: JKC近畿ブロットリマー協議会

期間: 令和4年10月5日(水)

対象: 教員

内容 犬種別(テリア系)ショークリップについて(仮)

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「かかわりづくりワークショップ」

連携企業等: 奈良教育大学教授 粕谷貴志先生

期間: 令和4年8月17日(水)

対象: 教員

内容 入学直後の学生間の人間関係の築き方、人との関わり方について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

1. 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか
→懇談会、研修の機会を設け、スキルアップを含めて対話の機会を設ける。
2. 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか
→入学前研修の際に学力テストを実施する等、現在の入学前学習も含めて運用を検討する

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
石田 龍一	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	業界団体
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	業界団体
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	業界団体
田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部 長	令和3年4月1日～令和5年3月31日	業界企業
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日	業界企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和4年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャン

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキ
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和4年7月31日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット総合科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			犬学・猫学	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を覚える。 犬・猫本来の能力について覚える。	1・前	30	1	○			○		○		
2	○			犬種・猫種学Ⅰ	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象) 犬種・猫種による習性や特徴を覚える。	1・前	30	1	○			○			○	
3	○			小動物概論Ⅰ	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。 幅広い動物の生態を学ぶことで、動物のスペシャリストになる。	1・後	30	1	○			○			○	
4	○			水生生物Ⅰ	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。 癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	1・前	30	1	○		△	○			○	○
5	○			解剖学	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。 犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系・消化器系・循環器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。 動物の体の仕組みを学ぶことで、飼育方法や病気などの他の分野の基礎を確実に答える。	1・後	30	1	○			○			○	
6	○			公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。 衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。	1・後	30	1	○			○			○	
7	○			動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。 仕事をする上での法律を覚える。	1・前	30	1	○			○			○	
8	○			グルーミング基礎学	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。 ビジネスとして仕事をしていくうえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。 また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚える。	1・通	60	2	○			○		○		

9	○		犬種別トリミング学Ⅰ	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングを覚える。 ブラッシング・爪切り・耳掃除など基本的知識を身につけ、多くの犬種のベーシックができるようになる。	1・前	30	1	○		○	○								
10	○		健康管理学	犬・猫の病気について、各コース共通に必要な知識を覚える。 犬・猫の病気について学び知識を身につける。	2・後	30	1	○		○								○	
11	○		基礎看護学	動物関係の仕事に就く上で犬・猫の必要最低限の看護知識を覚える。 必要最低限の看護知識・応急処置法を身につける。	1・後	30	1	○		○	○								
12	○		愛玩動物飼養管理学	愛玩動物飼養管理士試験【2級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士2級の合格レベル、知識を覚える。	1・通	60	2	○		○								○	
13	○		動物行動学Ⅰ	犬・猫種による行動の異なりから、成長段階にみられる行動を覚える。 それぞれの対応を学び、固体における基本的な行動の意義・機序を理解し飼い主指導に活かす。	1・後	30	1	○		○								○	
14	○		小動物飼育学Ⅰ	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に気を付けないといけないことを学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質（ＱＯＬ）の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。	1・前	30	1	○		○	○								
15	○		家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる訓練方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。	1・前	30	1			○	○							○	○
16	○		パピーケアⅠ	生後1ヵ月から1歳になるまでの基礎知識であるしつけ・栄養・健康面についてを覚える。飼い主との家族関係を踏まえ、アドバイスができる。	2・前	30	1	○		○								○	○
17	○		グルーミングⅠ	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。トレーナー&アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。	1・通	270	9			○	○							○	○
18	○		実務研修Ⅰ	実際のペットショップ・動物病院に勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。 (1) 就職を考えさせ早期就職内定へ繋げる。 (2) ペット業界での自分の適性や仕事の内容について自己分析する。 (3) ペット業界への関心・就職への意欲を高め、日々の学校生活に対する意欲を高める。	2・前	30	1			○	○							○	○

19	○		キャリアデザインⅠ	就職活動に実践で活用できる内容を覚える。	1・通	60	2	○			○	○				
20	○		キャリアデザインⅡ	就職活動に実践で活用できる内容の学習と習得。	2・通	60	2	○			○	○				
21	○		ビジネスマナー	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1・前	30	1	○			○		○			
22	○		ビジネス電話	第1～3回授業については、サービス接客検定に向けての継続授業。 接客対応の基礎 『電話対応』の実務知識を覚える。 基本的な電話対応マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	1・後	30	1	○	△		○		○			
23	○		基本IT技術Ⅰ	コンピュータを利用した事務作業に必要な文書の作成やマナーについて学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。	2・前	60	2				○	○		○		
24	○		基本IT技術Ⅱ	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方・プレゼンテーションの作成 必要に応じたコンピュータの利用技術の取得	2・後	60	2				○	○		○		
25	○		総合学習Ⅰ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	1・後	30	1				○		○	○		
26	○		総合学習Ⅱ	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。	2・後	30	1				○		○	○		
27		○	美容Ⅰ	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カッティング（カット技術・整毛技術）方法を覚え、技術方法を身に付ける。	1・後	90	3				○	○		○	○	
28		○	美容Ⅱ	各現場で通用するトリミング技術方法を見る。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生から学んだ技術を後退させない。時間短縮をより意識する。クリッピング時間の短縮。JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2・通	540	18					○	○		○	○
29		○	犬種別トリミング学Ⅱ	専門的な犬種別トリミング方法、クリップスタイルを覚える。 より深く犬種を知り、犬種にあった専門的なトリミング方法の知識を覚える。	1・後	30	1	○				○		○		
30		○	トリマー演習	JKC・トリマーC級ライセンス取得、AAV・サロントリマー1級ライセンス取得のための知識（筆記試験対策）、その他デザインカットの知識を身につける。	2・通	60	2	○				○		○		
31		○	犬種別トリミング学Ⅲ	専門的な各犬種別トリミング方法を見る。 1年時より深く犬種を知り、各犬種にあった専門的なトリミング・カッティング方法を覚える。	2・通	60	2	○				○		○		

32	○	訓練Ⅰ	家庭犬を深く知ること、しつけとは何か、飼い主ができる方法や飼い主が困る犬の問題行動の予防や解決方法を覚える。モデル犬と一緒に犬を飼うために必要なスキルと最低限のしつけ方法を学び、覚える。	2・通	120	4	△	○	○	○	○
33	○	訓練Ⅱ	ドッグ・スポーツを通して、犬とのコミュニケーション力向上を行う。社会で自立するための技術・知識の向上と社会貢献ができる。	2・通	120	4	△	○	○	○	○
34	○	家庭犬訓練Ⅱ	2年次からの専門的なコース授業開始に向けて、犬種を熟知し自分に相応するパートナーモデル犬種を見極める。訓練とはどんなことか、どのように行うのかを覚える 1頭以上のモデル犬に訓練を入れ、JKC競技会に出場する。 犬を飼養する意義を考え、自分に合ったパートナーモデル犬を決定し、トレーナーとの絆を深めながら基本的なコントロール方法を覚え身に付ける。	1・後	60	2	△	○	○	○	○
35	○	家庭犬訓練Ⅲ	犬を長く知ること、専門的なしつけ学を学ぶ（家庭犬訓練の学科と実技内容を知る） 犬のトレーニングについての考え方・接し方、実技を学ぶ、覚える	2・通	120	4	△	○	○	○	○
36	○	パピーケアⅡ	1年次の履修内容より深く専門的に、犬の生後1ヵ月から1歳になるまでのしつけ・栄養・健康・飼育上の注意点等を覚える。	2・後	60	2	△	○	○	○	○
37	○	ハンドリング	ハンドリングの方法と技術を覚える。犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。	2・前	60	2		○	○	○	○
38	○	グルーミングⅡ	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2・通	180	6		○	○	○	○
39	○	愛犬飼育管理学	犬種についての基本的な知識を覚える。	2・後	30	1	○	○	○	○	○
40	○	小動物概論Ⅱ	動物全般について（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・無脊椎動物） 小動物全般について広範囲の専門的な知識を覚える	2・通	120	4	○	○	○	○	○
41	○	小動物販売士検定	小動物の飼養方法・管理方法を覚え、顧客に対象動物の終生飼養を前提とした説明ができる。様々な動物の知識を広め、覚える	2・前	30	1	○	○	○	○	○
42	○	小動物飼育学Ⅱ	ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物（哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等）やふれあい施設で飼養されている動物、日本の野生動物について、より知識を深め、アドバイザーとしての領域を広める。	2・後	60	2	△	○	○	○	○

43	○	水生生物Ⅱ	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる	1・後	60	2	△		○	○			○	○
44	○	水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。	2・通	120	4	△		○	○			○	○
45	○	動物行動学Ⅱ	犬・猫の様々な情報を読み取り、問題となる行動を観察・記録・分析を実践し、解決方法を導く。生体・生理的状态・環境刺激などの要因を分析したうえで、犬と飼い主の指導・問題行動の改善ができる。	2・前	30	1	○			○				○
46	○	愛玩動物飼養管理学特論	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。 愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。	2・後	30	1	○			○				○
47	○	小動物看護学	動物看護師から、ペットアドバイザーに知っておいてほしい小動物の疾病、それを防ぐための飼育方法等について学ぶ。 ペットショップで取り扱う代表的な小動物の生態・習性、飼養・保定方法、代表的な疾病を各小動物ごとに説明できる。 ペットショップでお客様に対して、各動物の起こりやすい病気を踏まえて紹介することができる。	2・通	60	2	○			○				○
48	○	犬種・猫種学Ⅱ	各グループの犬種の専門的な知識を覚える。 各犬種・猫種の習性や特徴を細かくスタンダードを分析し、覚える。	1・後	30	1	○			○				○
49	○	愛犬飼育管理学	犬種についての基本的な知識を覚える。	2・後	30	1	○			○				○
50	○	グルーミングⅡ	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。JKCトリマライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2・通	180	6			○	○			○	○
51	○	ペットマッサージ	アニマルベーシック／メンテナンスマッサージコース（学生用）の修了を目指した授業	12・後	60	2	○		△	○				○
52	○	ペット経営学	ドッグ（ペット）サロン、生体販売店、ペット介護施設、しつけ教室等の店舗運営に直結する内容を覚え、将来店舗運営時に活用。最新ペット業界の動きを常にチェックする。	12・後	60	2	○			○				○
53	○	フードアドバイザー	フードアドバイザーとしての最低限必要な知識である栄養学、ペットフード、サプリメント類についてを覚える。	12・後	60	2	○			○				○

62			○	ビジネス文章力	美しい字を書く。ビジネス文書に関わる知識・技術を実際に活用できる。手紙・はがきを書くルールやマナーを活用する。社会人として必要なビジネス文書のマナーとルールを活用して社会生活を送る。	12・後	60	2	○			○						○
63			○	論理的思考力	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度の力だけで楽しみながらできる。 一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集、整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが要求されるため、今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。	12・後	60	2	○			○						○
64			○	ビジネス英語	ペットショップ（サロン）等での対応について、様々な場面での英会話を覚え、授業は簡単な会話を中心としペット分野に必要な表現・用語を併せて覚える。 外国人を迎えた時だけでなく、多方面で国際的なコミュニケーションが必要になっているため、トリマーやトレーナー、アドバイザー等の活躍する場所も今後海外のペットショップで働いたり、留学したりと多くのステージが考えられる。グローバル時代に羽ばたくために、国際語としての英語を自分のものにする。	12・後	60	2	○	△		○						○
65			○	イベントプロデュースⅠ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	1・前	30	1				○	○					○
66			○	イベントプロデュースⅡ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	2・後	30	1				○	○					○

67	○	企業研究	就職を希望するペットショップ・動物病院等の調査法、インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、インターンシップに参加する前提とした目的・心構え・ビジネスマナー等を中心に、事前準備を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書が作成できる。（交通費等の費用は原則自己負担） 自分自身の視点から調査・分析出来る能力を身につけ、就職につなげる。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識の育成を計るとともに、自ら職業選択の明確な基準軸を見つける。	12・前	60	2	○		○	○				
68	○	ボランティア活動	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をとおして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。 ・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える ・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える ・主体的にボランティアに参加することが	12・前	120	4		○	○	○				
合計				68	科目	4,530	(151)	単位	(単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：必修科目1,200時間（40単位）、選択必修科目720時間（24単位）以		1学年の学期区分	2期
履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。